

世界の国を知る  世界の国から学ぶ

# わたしたちの地球と未来

 **ウズベキスタン共和国** 



### 【表紙の写真】

(左上)

サマルカンドのレジスタン広場  
青の都と呼ばれる美しい街、  
サマルカンドにある広場です。  
ユネスコ世界遺産にも登録  
されています。

(右下)

ウズベキスタンの民族衣装を  
着た女性

# Contents

- 01 こんな想いを込めました!
- 02 こんな教材です!
- 03 こんな風に使えます!
- 05 なぜウズベキスタン共和国?

## 第1章 ウズベキスタンってどんな国?

= アジアの中央にある文化の交差点  
未来へ羽ばたく若人の国 =

- 07 クイズ100人に聞きました!
- 09 数字で知ろうウズベキスタン
- 11 ウズベキスタンのウソ?ホント?
- 13 ウズベキスタン料理を知ろう!  
~ アジアの中心でお腹を満たす ~
- 15 ウズベキスタンに住んでる人ってどんな人?
- 17 ウズベキスタンの言葉と文字  
~ キリル文字って知ってる? ~
- 19 フォトギャラリー ~ バザールの様子 ~

## 第2章 へえ~! ウズベキスタンと日本

- 21 ウズベキスタンと日本のつながり ウソ?ホント?
- 25 参考資料 名古屋大学日本法教育研究センター  
ウズベキスタンの法整備を支援

## 第3章 一緒に考えよう! こんな課題

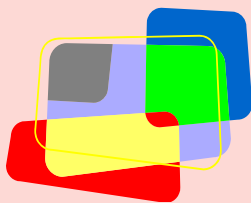
- 27 写真は語る!  
~ ウズベキスタンのある場所の写真から ~
- 29 アラル海の悲劇  
~ 持続可能な開発について考える ~
- 32 参考資料 ウズベキスタンの英雄アミール・ティムール
- 33 ちょっとブレイク ~ ウズベキスタンのおしゃれ ~

## 第4章 そして未来へ

- 35 『多文化共生社会』ってどんな社会?
- 36 号外!号外!20年後の新聞です
- 37 多文化共生社会と地球的課題

## 参考資料

- 39 目で見るウズベキスタン
- 41 ウズベキスタン地図
- 43 参考文献・データ等の出典
- 43 ご協力いただいた方たち
- 43 教材作成チーム



# こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！  
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



## 国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

## 人の顔が見える教材をつくりたい！

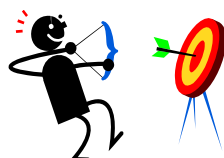
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～、こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

## 世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

## 未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



# こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

## ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター(参加型プログラムの進行役)や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

## 参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようようなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にしてください。

## きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、ウズベキスタンのほんの一面です。本書だけでウズベキスタンのすべてがわかるわけではありません。ウズベキスタンに親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

## 使い方は自由です

とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。P.3～4に掲載した使い方の例を参考に、どんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。

## カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

## 本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一口コラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



参加型のプログラムです。  
必要に応じてコピーし、配布してください。



プログラムで模造紙を使います。



プログラムに関する説明です。  
ファシリテーター・先生用です。



プログラムでマジックを使います。



プログラムのねらいです。



プログラムで付箋を使います。



ちょっとブレイク一口コラムです。



プログラムでA4用紙を使います。  
裏紙等を活用してください。



プログラムに使う資料です。  
必要に応じてコピーし配布してください。



データ等の出典です。



コピーし、カード等に切り離して  
使ってください。



写真の撮影者です。



# こんな風に使えます！

例えば、こんな使い方はいかがですか？

## 第1章 ウズベキスタンってどんな国？ = アジアの中央にある文化の交差点 未来へ羽ばたく若人の国 =

### P.7 クイズ100人に聞きました！

ウズベキスタンを学ぶ学習の導入として使えます。正しい答えはなかなか出てこないと思いますが、正しい答えを求めることがねらいではありません。わたしたちは、1つの国を国全体のデータや象徴的なものだけで捉えがちです。それも大事なことです。それ以外のことは意外と知らないということに気づいて、「ウズベキスタンっていったいどんな国だろう」と興味を持ってもらい、次の作業につなげるとよいでしょう。

①の地図は、日本が中心にありません。普段日本で使われている世界地図は、日本が中心になっているものが多いのですが、「極東の国」といわれるように、ほかの国では日本が右端になっている地図が多く使われています。これをきっかけに、世界で使われている様々な地図を調べてみるのもおもしろいでしょう。

### P.9 数字で知ろう！ウズベキスタン

日本人にとって馴染みの薄いウズベキスタンのことをざっくりと把握するプログラムです。正解を出すことがねらいではありません。選択式にすることによって、楽しみながらウズベキスタンに興味をもってもらうことがねらいです。小学生などでこの選択問題が難しそうなら、3択などに置きかえてもいいでしょう。

### P.11 ウズベキスタンのウソ？ホント？

これもウズベキスタンの全体像をざっくりと把握するためのプログラムですが、より日常的な問題で親近感がわくと思います。カードをバラバラに切り離して、グループで「ウソ」と「ホント」に分ける作業をしますが、場合によっては、紙の裏表で「ウソ・ホント」カードを作り、個人またはグループで掲げてもらっても楽しいかもしれません。このプログラムを導入に使い、答えについて調べ学習したり、参加者にさらに別のクイズを作ってもらい、お互いにクイズを出し合うのもおもしろいでしょう。

### P.13 ウズベキスタン料理を知ろう！～アジアの中心でお腹を満たす～

P.13をコピーして参加者に配り、写真と料理名を線で結ぶプログラムです。留学生などをお願いして、実際に料理して食べてみたりすると、より楽しいでしょう。

### P.15 ウズベキスタンに住んでいる人ってどんな人？

このプログラムは「多文化共生社会」を考えるプログラムとしても使えます。ウズベキスタンの状況だけ説明して、日本の状況は調べ学習にしてもいいでしょう。また、P.33のプログラムにつなげることもできます。

### P.17 ウズベキスタンの言葉と文字～キリル文字って知ってる？～

文字やことばもとっつきやすく、楽しく学べるテーマです。特にアルファベット以外の文字は、新鮮で楽しめます。

②③をいろいろ楽しんでもいいかもしれません。ただ、楽しいだけで終わるのではなく、④の作業で多文化共生につなげるといいと思います。

## 第2章 へえ～！ウズベキスタンと日本

### P.21 ウズベキスタンと日本のつながり ウソ？ホント？

今までほとんど知らなかった国でも、必ずどこかで日本とつながっています。そこに気づいてもらいたいプログラムです。P.11のカードとあわせてクイズをやってもいいかもしれません。

### P.27 写真は語る！～ウズベキスタンのある場所の写真から～

写真というのはいろいろなものを語ってくれます。参加者にいろいろなことを想像してもらいましょう。選択肢を出す前にまずは自分でストーリーを考えてもらってもいいかもしれません。また、写真の説明をしたあとで、地図などで位置を確認したり、原因については調べ学習にしたり、他にもこんな湖がないか調べてきたり...と発展させることもできます。

### P.29 アラル海の悲劇 ～持続可能な開発について考える～

P.27のプログラムの発展版です。③については小学生には少し難しいかもしれませんが、その場合はアレンジしてください。また、説明部分も参加者が小学生の場合は、わかりやすくした方がいいかもしれません。最終的には、最近よく使われている「持続可能な」というのがどういうことなのかを、自分なりに考えることがねらいです。

## 第4章 そして未来へ

### P.33 「多文化共生社会」ってどんな社会？ / P.34 号外！号外！20年後の新聞です

導入としてもまとめとしても使えるプログラムです。どんな未来を目指して自分たちが生活していくのか考えるきっかけにしてください。いずれのプログラムも正解はありませんが、P.37の資料を参考に補足説明をしてください。

## その他いろいろ

国際交流は楽しいものです。プログラムも楽しい雰囲気が進められるよう参加者に合わせた進め方にアレンジしてください。

プログラムは単独でも組み合わせても使えます。参加型のプログラムと情報提供の時間をうまく組み合わせましょう。例えば、P.11の「ウズベキスタンのウソ？ ホント？」をした後に留学生や青年海外協力隊OB / OGなどのお話を伺うと、より楽しくわかりやすいと思います。

4～6人のグループで行うとアイデアが出やすく、場も盛り上がります。ただ、流れや状況に応じて、個人作業や全員での作業を交えながらメリハリをつけるといいでしょう。

各プログラムの最後に「気づいたこと、わかったこと、感じたこと」などを聞くふりかえりの時間をとると、より理解が深まり、記憶に残りやすいでしょう。

P.41に参考文献、出典などを掲載しています。特にデータについては、最新のものを使っていただいた方がいいと思います。

ウズベキスタン以外の国の教材も作成しています（P.5）。同じテーマを扱っている国もありますので、組み合わせるとおもしろいかもしれません。例えば、料理や学校の様子などはいろいろな国のものを合わせて比較すると楽しいですネ！

慣れてきたら、グループごとに国を決めて子どもたちがファシリテーター役でプログラムを進めるのもおもしろいかもしれません。

# なぜウズベキスタン共和国？

始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国防レンドシップ事業」

2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国(日本を除く)のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国防レンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけでなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国防レンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。



そして、ウズベキスタン共和国のホームシティは、一宮市でした。

ウズベキスタン共和国

イタリア共和国  
オランダ王国  
ベルギー王国  
フランス共和国  
ポルトガル共和国  
モロッコ王国  
社会主義リビアアラブ国  
セネガル共和国  
ベナン共和国  
カメルーン共和国  
ガボン共和国  
南アフリカ共和国  
チャド共和国  
ボスニア・ヘルツェゴビナ  
キルギス共和国  
モンゴル国  
大韓民国  
バキスタン・イスラム共和国  
ラオス人民民主共和国  
カンボジア王国  
アゼルバイジャン共和国  
イラン・イスラム共和国  
サウジアラビア王国  
エジプト・アラブ共和国  
ケニア共和国

ニュージーランド

エルサルバドル共和国  
パナマ共和国  
ボリビア共和国  
ドミニカ共和国

本教材  
:2008年度教材作成の国  
:2007年度教材作成の国  
:愛知万博公式参加国

愛知万博 / 中央アジア共同館

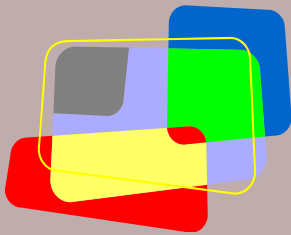




## 第1章

# ウズベキスタンってどんな国？

=アジアの中央にある文化の交差点  
未来へ羽ばたく若人の国=



# クイズ100人に聞きました！

① ところで、みなさんはウズベキスタンのこと、どのくらい知っていますか？

① 下の地図でウズベキスタン共和国はどこでしょう？ この辺だと思ふところに印をつけよう。



② ウズベキスタンと言えば何？  
人、物、イメージなど、何でもいいので思いつくものをできるだけたくさん挙げてみよう！

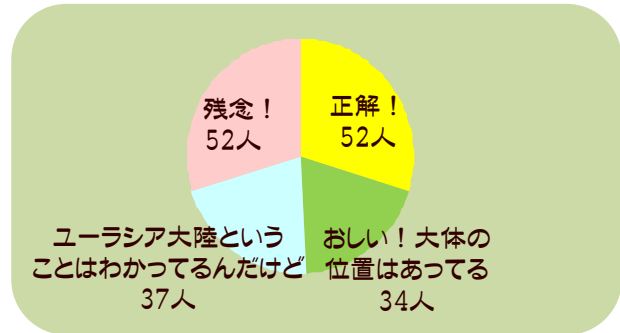


同じ質問を一宮市の小学生159人に聞いた結果は次のようになりました。



まずは「知らないこと」に気づくことから始めましょう。

## ウズベキスタンはどこ？



正解率は約30%。3分の1の小学生がウズベキスタンの場所を知っていました。スバラシすぎる！

## ウズベキスタンからイメージするもの

最も多かったのは、「日本と同じようにお米を食べること」(64人)「ウズベキスタン料理」(42人)と料理に関することでした。その他、学校のこと、踊りや民族衣装など、2005年万博でウズベキスタンと交流をした一宮市の小学生ならではの答えがたくさんありました。

お米を食べること(64人) / ウズベキスタン料理(42人) / ウズベキスタンの学校(34人) / 踊り(33人) / 民族衣装(29人) / 遊び・ゲーム(24人) / サッカー / お祭り / イスラム教 / 高い塔 / 建物 / 国旗 / ジングスカン / 羊の肉 / 石油 / ラグビー / 綿 / 青いドーム / スカーフ / 戦争 / 人がいっぱい / 美しい国 / カザフスタンの下にある / ロシアに近い / 車が走っていない / 数字の数がよくわからない / 内陸部のため気温が高い / 温度差が大きい / 畑とかなさそう / ロバ / ヤギ / 地雷 / にぎやか / 足が速そう / やさしい / 穏やか / 背が高い / 帽子をかぶる / 信仰心が厚い / 日本人と顔色が同じ / 大統領がいる / お墓がある / 仏教 / 世界遺産 / 柔道 など

## おまけ...ウズベキスタンの数字の教え方

- 1 Bir ビル    2 Ikki イッキ    3 Uch ウッチ    4 To'rt トルト    5 Besh ベシ
- 6 Olti オルティ    7 Yetti イェッティ    8 Sakkiz サッキズ
- 9 To'qqiz トッキズ    10 O'n オン

# 数字で知ろう！ウズベキスタン

**?** ウズベキスタンの基本知識を、数字で学びましょう。



下の地図などを見て  の中に入る数字を下から選んで入れましょう。

ウズベキスタン共和国は、 年に独立した大変若い国です。以前は、ソビエト連邦に属していましたが、ソ連の崩壊と同時に、他の周辺国とともに独立しました。日本とは独立とほぼ同時に国交を結びました。

独立こそ最近のことですが、この地域の歴史はとても古く、紀元前から東西ユーラシアの交易の中心として栄えてきました。古くはアレキサンダー大王の遠征、また

世紀(日本の鎌倉時代のころ)にはチンギス・ハーン率いるモンゴル帝国に支配され、その後、ティムール帝国が成立、近代ではロシアの支配下にはいるなど、めまぐるしく変わっています。

歴史的建築物も多く、世界中から多くの観光客が見学にやってきます。サマルカンド



ウズベキスタンと周辺国の地図(ウィキペディアより)

の街はその代表的なもので、世界遺産にも登録されています。2008年現在、ウズベキスタンには  件の世界遺産登録があります。

ウズベキスタンの面積は447400平方キロメートル、日本の約  倍の広さです。国内は  の州と1つの共和国、そして首都のタシュケント(タシケント)特別市に分かれています。周りを  つの国に囲まれている内陸国で、海はありません。

日本からは、飛行機の直行便で約  時間かかります。日本とウズベキスタンの間の時差は4時間です。

2008年現在で、日本の約5分の1、 万人の人が住んでいます。首都タシュケント(タシケント)は人口  万人で名古屋市の人口とほぼ同じ大都市です(2006年)。国民の多くはイスラム教を信仰しています。

ウズベキスタンの主要産業は農業で、特に綿花の輸出量は世界  位です。また、鉱業も盛んで、金、石油、天然ガスなどの天然資源の埋蔵量は豊富に取れ、中でも金は世界8位の産出量を誇っています。貿易相手は圧倒的にロシアが多いです。

1. 2

2

4

5

8

12

13

216

1991

2780



首都タシュケント(タシケント)に、旅客機を作る工場があります。ロシアや東欧諸国で作られた翼やエンジンなどの部品をこの工場ですべて最終的に組み合わせて、IL-114型という60人乗り程度のプロペラ旅客機を組み立てています。



P.9のこたえと解説です。



ウズベキスタンのことをざっくり把握しましょう。

① 1991

② 13

③ 4

④ 1.2

⑤ 12

⑥ 5

⑦ 8

⑧ 2780

⑨ 216

⑩ 2

## 長い歴史と若さを併せ持つ国

ウズベキスタンは、1991年に独立した若い国です。しかし、その歴史は大変長く、紀元前から東西ユーラシアを結ぶ交易地として栄えてきました。アレキサンダー大王の制圧、チンギス・ハーン率いるモンゴル帝国の進入、その後のティムール帝国の成立、北の大国ロシアの支配下にはいるなどを経て、ソビエト連邦に属した後、ソ連崩壊後、ウズベキスタン共和国として独立しました。



サマルカンドのレジスタン広場

## ウズベキスタンの世界遺産

歴史のある町も多く、中でも、サマルカンドは、ウズベキスタン中央部にある古都で2000年以上の歴史を持つ町です。抜けるような青空と街にあるモスクの色から「青の都」と呼ばれ、世界中から多くの人が観光に来ています。この街は、1220年にはモンゴル軍の攻撃を受けるなど、たびたび外部勢力が進入しましたが14世紀にティムールにより再興され、ティムール帝国の首都が置かれ、中央アジア有数の都市として繁栄しました。

町の中心にあるレジスタン広場は、3つのマドラサ（イスラームの神学校）が広場を囲うように並び、中央アジアの文化と学問の殿堂と研究の場として大きな役割を果たしました。



ヒヴァのイチャン・カラ

現在、この町は「文化交差点」として世界遺産（文化遺産）に指定され、修復・保全が進められています。現在、ウズベキスタン国内にはサマルカンド以外にも、ブハラやヒヴァのイチャン・カラ、シャフリサブス歴史地区など世界遺産登録が全部で4件あります。

## 海がない国

日本からウズベキスタンへは、飛行機で約8時間かかります。日本との時差は4時間。日本が昼の12時の時には、ウズベキスタンは朝の8時です。広さは、44.7万平方キロメートルあり、日本の約1.2倍の面積です。行政区分は、首都タシュケント特別市と12の州、一つの共和国に分かれています。ウズベキスタンに隣接する国は、カザフスタン、キルギス、アフガニスタン、タジキスタン、トルクメニスタンの5カ国で、アフガニスタン以外は、全て旧ソビエト連邦の国です。ウズベキスタンには海が無く、隣接する国も全て海がない内陸国です。ウズベキスタンは世界で2つしかない二重内陸国です。（もう一つはヨーロッパのリヒテンシュタイン公国）。二重内陸国とは、隣接する国が全て内陸国で、陸路で海に出るためには、2カ国の国境を越えないと出られない国のことを言います。海に囲まれた私たちの国日本とは対照的ですね。

## ウズベキスタンの産業

ウズベキスタンの主要産業は、農業で、特に綿花栽培が盛んで、綿花の輸出は世界2位を誇ります。また、製造業は、綿繊維産業、食品加工、機械製作などです。鉱業も盛んで、金、石油、天然ガスなどの天然資源の埋蔵量が豊富で、中でも金は世界8位の産出量を誇っています。（アメリカ合衆国内務省「ミネラル・イヤーブック2004」より）主な貿易相手国は、輸出入ともロシアがトップで、旧ソ連の国との交易が中心となっています。日本との貿易は、輸出入とも全体の貿易額の1%にも満たないのですが、年々貿易額が増えています。

外務省WEBサイト：ウズベキスタン概略・JETRO Webサイト

# ウズベキスタンのウソ？ホント？

❓ 日本人にとってまだ馴染みの薄い国ウズベキスタン。  
次のカードはウズベキスタンについて書かれたものですが、さてさて、ウソ？ホント？

① ウズベキスタンの首都タシュケントには、東京や名古屋と同じように地下鉄が走っている。



② ウズベキスタンは乾燥した内陸国なので、雪は降らない。



③ タシュケントにあるテレビ塔は、東京タワーよりも高い。



④ 日本と同じように5月5日は「こどもの日」である。



⑤ ウズベキスタンを走っている自動車は全て左ハンドルである。



⑥ ウズベキスタンではまだ携帯電話は発達していないので、固定電話しか使われていない。



⑦ 「ウズベキスタン」とは、ウズベク語で「ウズベクの人たち」という意味である。



⑧ ウズベキスタンの小学校は日本と同じ6年生までである。



⑨ ウズベキスタンは受験熱が高く、進学用の塾や予備校がたくさんある。



⑩ ウズベキスタンでアパートを借りると、家具まで付いてくる。



⑪ ウズベキスタンの通貨単位は「スム」である。



ウズベキスタンの学校には落第があります。だから、テストにはみんな必死になります。



- 1 **○**  
**ホント** 中央アジアの中で唯一地下鉄が走っている街です。タシュケントは中央アジアの大都会なんですよ。
- 2 **×**  
**ウン** 雪は降ります。ウズベキスタンは大陸性気候のため、夏と冬、そして昼と夜の温度差が大変激しい国です。首都タシュケントの真夏の最高気温は35度ですが夜は20度を切ることもあります。また、冬は最低気温が氷点下になる日も多く、寒いところではマイナス10度以下にもなります。平地だけでなく、山岳地もあり、首都タシュケントから北東へ80kmほど行ったチムガンにはスキー場もあるんですよ。
- 3 **○**  
**ホント** 高さは375メートルで東京タワー（高さ333メートル）よりも高い塔です。ただし、一般向けの展望台は100メートルのところがあるので、展望台の高さは東京タワーの方が高いです。外国人はパスポートを見せないと中に入ることはできません。
- 4 **×**  
**ウン** 残念ながら、こどもの日はありません。ウズベキスタンの祝日は、1月1日の新年や、9月1日の独立記念日の他に、国際女性デー（3月8日）、教師の日（10月1日）など日本にはない祝日があります。また、ヒジュラ（イスラム）暦によるラマダーンの終了日や犠牲祭（イード・アル＝アドハー）もあります。こどもの日がなくてその代わりに教師の日があるなんて、面白いですね。この教師の日には全教師にボーナスが送られます。
- 5 **○**  
**ホント** 日本と違って車は右側通行です。ウズベキスタンでは、日本の車と同じ右ハンドル車は法律で禁止されています。だから皆さんが普段乗っている右ハンドルの車をそのまま輸出しても乗れないのです。
- 6 **×**  
**ウン** 普及率は5パーセント弱（2005年末データ）とまだまだ低いものの、日本と同様に携帯電話はあります。日本の通信形式と異なりGSM方式ですが、国際ローミング仕様の携帯電話なら日本からの携帯電話も使用できます。一般に、固定電話に対して携帯電話はインフラ設備投資が少なくすむので、発展途上国では普及しやすいと言われています。
- 7 **×**  
**ウン** 「スタン」とはペルシャ語で「の国（土地）」という意味です。周りにもアフガニスタン、パキスタンなど、「〇〇スタン」という国名の国がありますが、言葉は違っても、みな同じ「〇〇の国」と言う意味です。
- 8 **×**  
**ウン** ウズベキスタンの小学校は4年まで、中等教育が5年間で、9年間は義務教育です。そのあと、3年間の高等教育に進みます。日本では小学校と中学校は別の場所にあることが多いですが、ウズベキスタンでは同じ場所にあることがほとんどで、小中と一貫教育が行われます。
- 9 **×**  
**ウン** ウズベキスタンには、一般的に日本にあるような塾はありません。そのかわり、家庭教師を付けて受験勉強しています。
- 10 **○**  
**ホント** ウズベキスタンでは家を借りるとき、家主が家具を用意することになっています。一般的には家主に必要なものを伝えて、揃えてもらいます。家主と一緒に家具を買いに行くこともあります。
- 11 **○**  
**ホント** スム(Sum)です。1994年6月27日に導入されました。それまでは、旧ソ連のルーブルを使用していました。レートは、1ドル=1,307.50スムです。(2008年6月2日付現在)



タシュケントテレビ塔

# ウズベキスタン料理を知ろう！～アジアの中心でお腹を満たす～

**?** 下の写真は、ウズベキスタンの料理の写真です。  
ヒントを見ながら名前と写真をつなぎ合わせてみましょう。

1



**A** プロフ

ウズベク風ピラフです。

**B** ノン(ナン)

インドにも同じようなものがありますね。

2



**C** チャクチャク

練った小麦粉を揚げて、蜂蜜でからめて作る、甘いかりんとうのようなお菓子です。

**D** ラグマン

うどんの仲間です。

3



**E** シヤシリク

肉の串焼きです。野菜を挟んだりして、焼きます。

**F** マントウ

挽肉やたまねぎを粉を練って作った皮に包み蒸した料理です。

4



**G** シャカロブ

トマトサラダです。塩とコショウだけで味付けするのがウズベキスタン風です。

**H** サムサ

ウズベク風パイです。

5



6



7



8



ウズベキスタンの結婚式は、とっても大がかり。200人から300人の出席者は当たり前で、時には1000人近くになることも。普通は新郎が新婦の家へ迎えに行き、その後新郎の家で宴会になります。都市部では結婚式場を使うこともあります。





1 [A]

2 [G]

3 [H]

4 [D]

5 [E]

6 [F]

7 [B]

8 [C]

## ウズベキスタン料理の特徴

中央アジアの中心に位置するウズベキスタンの料理は、東の中国や旧ソ連、南西にあるイランや北方の遊牧民など、陸続きの周辺の影響を受けて発展してきました。例えば、マントウは中国の「饅頭」の影響を受けた料理といわれています。また、サムサは、南アジアにも見られる料理です。

ウズベキスタン料理の食材としては、季節によって異なる豊富な野菜類と果物、そして大麦、小麦、米などの穀類や豆類があります。肉はイスラム教徒が多いため、羊肉や牛肉、鶏肉が中心です。魚は海がないため、一般的には鯉やなますなどの川魚しか食べられません。また、これらの食材を炒めたりするのに綿花油や羊油が使われます。果物も豊富で、スイカ、アンズ、イチジク、ブドウなどの果実類や、ナッツ類が日常的に食べられています。飲み物では、チョーイと呼ばれる紅茶が大変よく飲まれ、チョイホナと呼ばれる茶店が町のいたるところに見られます。逆にコーヒーはあまり飲まれません。

イスラム教徒が多数を占めるのにもかかわらず飲酒の習慣があるのも特徴で、ウォッカやビール、ワインなどが飲まれています。

### ● プロフ ～伝統的なお米料理～

プロフは、油で炒めたニンジンやタマネギ、羊肉、各種スパイスと一緒に米を炊き上げた、ウズベキスタンの伝統的なお米料理です。

家庭でもよく作られますが、結婚式などのお祝いの時には必ず出される晴れの日の料理で、その時は「カザン」というとても大きなお鍋で盛大に作られるそうです。この時、プロフを作るのは決まって男性です。宴席に招かれた場合、このプロフが出される前に帰ることは失礼にあたると言われていました。

### ● ノン

食事の際には必ず登場するのが「ノン(ナン)」と呼ばれるタンドリー(石釜)で焼かれたパン。ずっしりと重く、長期保存も出来る塩味の利いた香ばしいパンです。このノンも地域によって色々あり、見た目にも美しいものがたくさんあります。大きさも直径50センチ以上になるものもあり、市場などでもみかけることがあります。インドのナンと名前も作り方もよく似ていますね。

### ● ラグマン

ウズベキスタン風肉うどんです。小麦粉で麺をうち、トマトベースのスープで野菜や羊肉、牛肉などを盛りつけて食べます。ウズベキスタンだけでなく、麺料理は中央アジア各国で広く親しまれています。麺生地を包丁で切った麺は「ケスマ・ラグマン」、紐状に手で細く延ばした麺は「チョズマ・ラグマン」と呼ばれます。作り方も地域や民族によって色々あり、焼きうどん風にしたリ、スープなしで食べたりもします。

### ● サムサ

肉と野菜を入れたパイです。ミンチ肉とたまねぎとジャガイモのみじん切りに、塩、コショウとスパイスをかけて、混ぜ、具にします。カボチャなどの野菜が具のサムサもあります。これを小麦粉に塩と水を混ぜ練って、最後は棒で伸ばした生地につつま、釜やオーブンでゆっくり焼くとできあがりです。ウズベキスタンの街角にはサムサを売る店があり、焼きたてのサムサを食べることができます。



ウズベキスタンの食卓  
一般の家庭の食事は、ダストルハンという大きな布を敷き、その上に食事を並べて家族で囲んで食べます



プロフを作る男の人たち



美しい模様に入ったノン



釜でノンを焼いている様子






サムサを作っている様子

# ウズベキスタンに住んでいる人ってどんな人？

① ウズベキスタンに住んでいる民族と日本に住んでいる外国人。共通点ある？

下の表は、日本の国籍別人口とウズベキスタンの民族・国籍別人口です。

 <b>日本</b> 総人口 1億2777万人		 <b>ウズベキスタン</b> 総人口 2511万人	
<b>A</b>	1億2615.4万人	ウズベク人	1978万人
<b>C</b>	59.8万人	タジク人	121万人
中国人	56万人	<b>B</b>	109万人
ブラジル人	31.2万人	カザフ人	99万人
<b>B</b>	7279人	<b>C</b>	17万人
ウズベキスタン人	620人	<b>A</b>	144人(2007年)

 日本の国籍別人口：総務省統計局2006年日本統計年鑑  
 ウズベキスタンの人口：ウズベキスタン共和国国家統計委員会(2002年データ)(外務省：国連人口基金データ)

- 1 日本とウズベキスタンはそれぞれA・B・Cに共通した国名が入ります。その国名を考えてみましょう。
- 2 ウズベキスタンと日本の2～5位の民族・国籍の人がそれぞれの国に住む主な理由は異なります。どんな理由で住んでいるのか考えてみましょう。



ウズベキスタンから日本に来た留学生、顔は異なりますが、みんなウズベキスタン人です。



ウズベキスタンの中に別の国があります。その名前は、「カラカルパクスタン共和国」。ウズベキスタン北西部に位置し、人口152万人(2002年)国土面積は16万4900km<sup>2</sup>でウズベク全土の約37%。現在、ウズベキスタンに帰属していますが、独自の憲法や国歌を持っており、ウズベク語とともにカラカルパク語が国家語に規定されています。



① **A** 日本人      **B** ロシア人      **C** 韓国・朝鮮人

② ウズベキスタン=周辺の民族が国境付近で入り組んで住んでいたから  
日本=20世紀初頭から戦前戦中に日本国籍者として渡航した人、日本人と結婚した人、日本で仕事や勉強をするため来日した人など。

### ウズベキスタンの民族構成～多民族国家ウズベキスタン～

ウズベキスタンは多民族国家です。

人口は2511万人(2002年)。ウズベキスタン人を構成する民族の割合は、テュルク系のウズベク人が78.8%、ロシア人が4.3%、タジク人が4.9%、カザフ人が3.9%となっており、他にカラパルパク人、キルギス人もウズベキスタン人を構成する民族となっています。また、朝鮮人も0.7%ほどいます。

ウズベキスタンは、島国で、海を越えないと他国と交流できない日本とは異なり、他国とは陸続きです。ウズベキスタンをはじめ、古来、複数の民族が交流しながら生活してきた中央アジアにおいては、民族の境目が明確でなく、人為的に引かれた国境を越えて民族が幅広く住んでいます。



### 日本に住んでいる外国人

日本には208万4000人ほどの外国人が住んでおり、総人口の約1.6%を占めます。

韓国・北朝鮮国籍者の多くは特別永住者といって、日本の韓国併合後、第二次世界大戦の時期にかけ来日し、戦後それぞれの国籍を取得した人です。中国人は、以前から多く住んでいましたが、近年、留学生として、また研修生・技能実習生制度により来日する人が増加しています。ブラジル人は、20世紀に入ってから日本から各国へ移民した人たちの子孫で、ほとんどが日系人です。1990年に日本の出入国管理法が改正され、3世までの日系人を無制限に受入ることを始めると、多数の日系ブラジル人が日本へ出稼ぎにくるようになったため、急増しました。

日本人と結婚して日本に住んでいる人も少なくありません。特にフィリピン人や中国人は日本人の配偶者として日本に住んでいる人が多いです。

《参考》愛知県には、平成19年12月31日現在、222,184人の外国人(人口比3.02%)が住んでいます。

人口上位5カ国は、1位ブラジル人80,401人 2位韓国・朝鮮42,252人 3位中国41,605人

以下フィリピン24,065人 ペルー8,292人となっています。ちなみに、県内在住のウズベキスタン人は、74名となっています。(2007年(平成19年)12月31日現在 法務省発表数値)

### ウズベキスタンと朝鮮族



市場で食材を売る  
コリョ人の女性

嶋田恭子

ウズベキスタンの市場へ行くと朝鮮半島名物のキムチが売られているのを目にすることがあります。なぜこんなところで、キムチが売られているのでしょうか?これは、ウズベキスタンに住んでいる朝鮮系の人々がキムチを作って売っているからです。

ウズベキスタンに朝鮮系の人?と言われるとちょっとピンとこないかもしれませんが、現在中央アジア各国には100万人近くの朝鮮系の人々が住んでおり、うちウズベキスタンには、17万人前後が生活しています。彼らは自分たちのことを「高麗人(コリョイン)」と呼んでいます。でも、なぜ、朝鮮半島から離れたウズベキスタンにこんなにもたくさんの朝鮮系の人たちが住んでいるのでしょうか?彼らがこの国に住むようになったのは、そんなに昔のことではありません。彼らの多くは、もともと朝鮮半島と陸続きのロシアの沿海州近辺に住んでいた人たちでした。さらにその前は朝鮮半島北部に住んでいたのですが、厳しい農村生活から逃れるために、19世紀以降に現在のロシア沿海

州に移住したのです。このころは、比較的国境の出入りは緩やかで、朝鮮半島と陸続きで民族の交流があったといわれています。ところが、20世紀にはいると、日本が韓国を併合し、中国北東部に満州国を建国したため、国境を接するソ連とは対立した関係になりました。そのため、朝鮮系の人たちは、以前住んでいた朝鮮半島に戻れなくなってしまいました。さらに、1930年代から第二次世界大戦中、彼ら是对立国の民族として中央アジアに強制移住させられたのです。戦後も、沿海州に戻ることを許されず、中央アジアに定着した彼らの多くは、中央アジアで生活することを望みました。ロシア語教育により、若者の中には朝鮮語を忘れてしまった人も少なくありません。

現在、韓国はウズベキスタンに住む朝鮮系の人たちを在外同胞とみなして支援を行っており、両国は経済的にもつながりが強く、韓国は、ウズベキスタンの輸入額の国別ランクで3位(2007年)。ソウルとタシュケントの間には毎日直行便が飛ぶほど交流が深くなっています。

# ウズベキスタンの言葉と文字～キリル文字って知ってる？～

**?** ウズベキスタンの公用語はウズベク語。でも、ウズベク語ってどんなことば???

**1** 下の1～6の文字は、すべて「ウズベキスタン」と書いてあります。文字と文字の名前、主に使われている国・地域を線で結びましょう。

「ウズベキスタン」	文字の名前	主に使われている国・地域
① 乌兹别克斯坦	あ アラビア文字	a 韓国・北朝鮮
② Uzbekistan	い 漢字	b タイ
③ <b>Ўзбекистан</b>	う ハングル	c アラブ・中東諸国など
④ ประเทศไทย	え ローマ字 (ラテン文字)	d ロシア・東欧諸国の一部など
⑤	お キリル文字	e アメリカ・西欧・南米諸国など
⑥ اوزبکستان	か タイ文字	f 中国など

**2** 下の表は、キリル文字とローマ字の対照表です。では、次の文字はなんて書いてあるのでしょうか？表を見て、考えましょう。

**1** Токио      **2** Нагоя      **3** Доразмон

キリル文字	大文字	A	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы	Ь	Э	Ю	Я
	小文字	a	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э	ю	я
ローマ字	大文字	A	B	V	G	D	Ye	Yo	Zh	Z	I	Y	K	L	M	N	O	P	R	S	T	U	F	Kh	Ts	Ch	Sh	Sh	ch	Y	E	Yu	Ya	
	小文字	a	b	v	g	d	ye	yo	zh	z	i	y	k	l	m	n	o	p	r	s	t	u	f	kh	ts	ch	sh	sh	ch	"	y	'	e	yu

**3** 自分の名前や住んでいる町の名前をキリル文字で書いてみましょう。

**4** ある日突然、日本語をひらがな、カタカナ、漢字を使わずに、全部ローマ字で書かなければならなくなったらどうなるでしょうか？考えてみましょう。



ウズベキスタンでは、双子が生まれたら、男の子の場合はハサン・フサン、女の子の場合はファティマ・ズフラと名づけられます。男女だったら、どちらが上かによって、ハサン・ズフラ、ファティマ・フサンとなるそうです。そのような名前をつける理由は、イスラム教より前にウズベキスタンで信じられていたゾロアスター教の影響だそ



P.17のこたえと解説です。



言葉と文字を通して、ウズベキスタンを身近に感じよう。

- 1 ① 烏茲別克斯坦 ② 漢字 ③ 中国など ④ Uzbekistan ⑤ ローマ字(ラテン文字) ⑥ アメリカ・西欧・南米諸国など  
 ③ Узбекистан ④ キリル文字 ⑤ ロシア・東欧諸国の一部など ⑥ ประเทศไทย ⑦ タイ文字 ⑧ タイ  
 ⑨ ⑩ ハングル ⑪ 韓国・北朝鮮 ⑫ أوزبكستان ⑬ アラビア文字 ⑭ アラブ・中東諸国など

- 2 ① 東京 (Tokyo:Tokio) ② 名古屋 (Nagoya) ③ ドラえもん (Doraemon)  
 3 書けましたか? 表記方法に違いがあるので、難しいですね  
 4 漢字を勉強しなくてもいい、外国人でも簡単に読めるという意見もあるかと思いますが、とりあえず、困りますよね。ウズベキスタンでも、独立後、文字でちょっと困ることがありました。下の「ウズベク語の文字」の項を読んでみてください。

## ウズベキスタンで話されている言葉

ウズベキスタンの公用語は、ウズベク語です。しかし、国語として正式に認定されたのは独立後のことです。また、多民族国家のため、公用語のウズベク語の他に、地域や民族によってタジク語やカザフ語なども話されています。旧ソ連時代は、旧ソ連の公用語であるロシア語がウズベク語と併用して使われていました。ロシア語は学校教育でも奨励され、公的機関などでは必須言語として使われてきました。そのため、都市部のエリート層を中心に、2カ国語を話す人も少なくありません。独立後、公的機関で使っていたロシア語は、2005年までにウズベク語に切り替える予定でしたが、実行が難しく、その期間は延長されています。また、言葉が異なる民族間の共通語としても有効であり、政治的や経済的にロシアとのつながりが深いため、将来役に立つ国際語としての位置づけもあり、いまだに広く使用されています。

## ウズベク語の文字



キリル文字で書かれた看板

ウズベク語の文字については、現在ローマ字を使うようになっていますが、旧ソ連時代はキリル文字(主にロシアや東欧で使われている文字)を使っていました。下記の会話のうち、こんにちは／アッサロームアライクム Asalaam aleikum はキリル文字で『Ассалому алайкум』と、ありがとう／Rahmat はキリル文字で『Рахмат』と書かれます。

1991年にソ連が崩壊し、ウズベキスタン共和国として新たに独立した後、政府は1995年にウズベク語をキリル文字からローマ字へ変更し、2005年までに完了させる方針を打ち立てました。ところが、旧ソ連時代に教育を受けた人たちは、キリル文字しか知らず、新しく切り替えられたローマ字に戸惑う人が多く、なかなか切り替えられず、街中や印刷物の表記にもキリル文字が多く残っているのが現状です。(左の写真) 実は、ウズベキスタンでは、1929年までは、ウズベク語をアラビア文字で表し、その後ローマ字の時代を経て1940年に独立してからはキリル文字をウズベク語の表記に使ってきました。この100年の間に3回も使う文字が変わった大変珍しい国です。

## ウズベク語をちょっと勉強しよう

ウズベク語は、テュルク諸語に分類される言葉です。中央アジアに位置して、アジアの西の端のトルコ語やお隣のカザフスタンで主に話されているカザフ語の仲間と言われています。主語-目的語-述語(例:○○は△△を◆◆する。)の順番で、文章が構成されます。また、「～へ」「～を」といった助詞を名詞の後ろに付けたりします。このあたりは、日本語とよく似ていますね。それでは、すこしだけ、ウズベク語を勉強してみましょう。

### <あいさつ>

こんにちは	アッサロームアライクム Asalaam aleikum	ありがとう	ラフマツト Rahmat
お元気ですか?	ヤヒシミスズ Yahshimisiz?	元気です。ありがとう。	ヤヒシマン・ラフマツト Yahshiman, rahmat
はい/いいえ	ハー/ヨク Ha / Y'oq	私の名前は○○です。	メニンイスマム Mening isming ○○
日本	ヤポニヤ Yaponiya	ウズベキスタン	オズベキスタン O'zbekston

うで、これらは、元々ペルシャ人がつけていた名前ですが、15世紀にナボイという作家が自分の小説に使っていたため、ウズベキスタンのみならず、中央アジアや中東の国々でもつけられるようになったと言われています。



# フォトギャラリー ～バザールの様子～

シルクロードの中央に位置するウズベキスタンは、古くからアジアの交易の中心として栄えてきました。

古来から、町の中心にはバザール(市場)が開かれ、賑わっていました。

今でも、ウズベキスタンの買い物といえば、バザール。

活気溢れるウズベキスタンのバザールの様子を写真で紹介します。



ソーセージ類



スイカ



ザクロ



バザールの入り口



ノン



服飾類



お米



干しぶどう

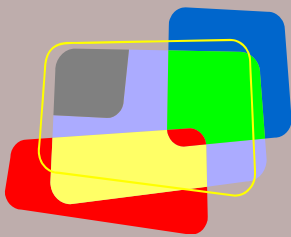


金物類



## 第2章

へえ～！ウズベキスタンと日本



# ウズベキスタンと日本のつながり ウソ？ホント？

❓ ウズベキスタンと日本の間にはいろいろな関係があります。さて、どんな関係でしょう？



① ウズベキスタン国内には日本人が葬られた墓地がたくさんある。



② ウズベキスタンのタシュケント市内には日本人が作った大きな劇場がある。



③ 日本がウズベキスタンから輸入しているもので、一番輸入額が多いのは綿花である。



④ ウズベキスタンには日本の企業はまだ進出していない。



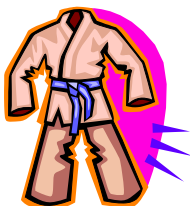
⑤ サッカー-日本代表はウズベキスタン代表に勝ったことがない。



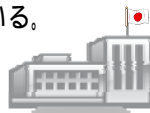
⑥ 元日本代表の監督ジーコはウズベキスタンのプロサッカーチームで監督をしていた。



⑦ クラッシュとは、日本の柔道によく似た伝統的格闘技である。



⑧ ウズベキスタンのタシュケントには、日本の国際協力で建てられた日本人材開発センターがあり、日本文化を学ぶため書き初め大会なども開かれている。



⑨ ウズベキスタンでは、日本の青年海外協力隊員が作製に関わった観光ガイドブックが作られた。



## 綿花つみ

綿はウズベキスタンの主産物ですが、膨大な綿を摘むために多くの人々の手が必要です。9月～10月までの間、地方都市では大学が休校になり多くの学生がこの作業にかり出されます。







P.21のこたえと解説です。



意外と関係が深いウズベキスタンと日本、つながりを知って身近に感じましょう。

1 ホント

2 ホント

3 × ウソ 金です。

4 × ウソ 16社あります。

5 × ウソ 日本の4勝2分けです。

6 ホント

7 ホント

8 ホント

9 ホント

## ウズベキスタンと日本の絆を築いた日本人抑留者

首都タシュケントをはじめ、ウズベキスタン各地に日本人の墓地があり、多くの日本人が眠っています。これらの墓地は、第二次世界大戦終結前後に、旧満州(現中国東北部)でソ連により抑留され、シベリアやモンゴルなどに強制連行された旧日本軍の捕虜の墓地です。抑留された捕虜の総数は、60万人。捕虜たちは、シベリアやモンゴルだけでなく、ウズベキスタンやカザフスタンなどの中央アジアにも送り込まれました。

ウズベキスタンには、約2万5千人の日本人が移送され、運河や炭鉱などの建設や、発電所、学校などの公共施設の建築などの強制労働につきました。過酷な気候条件と厳しい収容所生活の中、栄養失調や病気、事故などで倒れ、残念なことに800名以上の日本人がこの地で還らぬ人となったのです。



タシュケント郊外にある日本人墓地



そうした日本人抑留者が建設した建物の一つが、首都タシュケントの中心部にある国立ナボイ劇場です。レンガ造りの三階建てで観客席1,400人を誇る立派な建物ですが、約500人の日本人抑留者が2年がかりでレンガの製造から館内の装飾、彫刻まで行ったと言われています。

1966年に大地震が起き、タシュケント市内の多くの建造物が倒壊したのですが、この劇場だけはほとんど無傷で、ウズベキスタンの人からは、「日本人は建築技術が高い。日本人が作った建物は丈夫だ。」と高く評価されました。

正面には、「1945年から46年にかけて極東から強制移住させられた数百人の日本人がこの劇場の建設に参加し、その完成に貢献した」とウズベク語、日本語、英語で表記されたプレートが設置されています。過酷な捕虜の境遇にあっても勤勉に働いた日本人抑留者は、当時の地元民に敬意を表されたそうです。そのためかウズベキスタンでの日本人への好感度は今でも非常に高いのです。

1991年に旧ソ連から独立して新国家建設を進めるウズベキスタンは、カリモフ大統領を筆頭に政府は、日本の明治維新や戦後復興をモデルとして「日本に見習え」を合言葉にしています。

国立ナボイ劇場と劇場正面にある碑

日本人墓地は、元抑留者たちの募金活動やウズベキスタン政府の協力により整備され、日本から送られたサクラの苗木千三百本も植樹されました。過酷な環境の中で祖国帰還を夢見ながらも、勤勉に働いて、ウズベキスタンと日本との友好の絆(きずな)を残してくれた日本人抑留者が造った道路や工場は今でも使用されています。

## 日本とウズベキスタンとの貿易

日本は、ウズベキスタンに輸送機械や鉄鋼などの工業製品を輸出し、その総額は約65億円、ウズベキスタンからは、金や繊維製品を輸入し、その総額は160億円となっています。輸入額のうち96.6%を占めるのは金です。日本との貿易は、輸出入とも全体の貿易額の1%にも満たないのですが、年々と貿易額が増えています。

2008年12月現在、ウズベキスタンには、日系企業が商社など16社進出しています。(現地との合弁企業含む)

2007年：日本通関統計

## サッカー アジアにおける日本のライバル国

ウズベキスタンで一番の人気スポーツはサッカーです。子供たちが空き地でボールをけり合う光景がよく見られます。また、大人たちもヨーロッパリーグの試合のある日は、カフェなどのテレビで観戦します。

ウズベキスタン代表チームはまだFIFAワールドカップへの出場はありませんが、アジア屈指の強豪国の一つ。2010年に南アフリカで開かれるFIFAワールドカップ南アフリカ大会のアジア最終予選にも進出し、日本と同じグループAで2つの椅子をかけて戦っています。2008年10月に日本で行われた対戦では、ウズベキスタンのエースFWのマクシム・シャツキフ選手が先制ゴールを決めました。日本の玉田選手のゴールで引き分けという結果に終わりました。2009年2月現在、

ウズベキスタンのFIFAランクは69位(日本は34位)。日本との対戦成績は0勝4敗2分けです。ウズベキスタンの選手は、もともと旧ソ連に属していた影響で、ロシアやウクライナなど旧ソ連の国内リーグで活躍する選手が比較的多いのが特徴で、ヨーロッパ風のエレガントで組織的なサッカーはアジア諸国の中でも異彩を放っています。

ウズベキスタン国内では、毎年春から秋にかけて国内リーグ戦が行われており、1部リーグでは16チームが日本のJリーグと同じようにホーム&アウェイで試合を行います。中でもFC Pakhtakor Tashkent(パフタコール・タシュケント)は6シーズン連続で優勝する名門チーム。アジアチャンピオンズリーグ(アジア各国のクラブチームでチャンピオンを決める選手権)にも常連で出場しているチームで、ウズベキスタン代表チームにも多くの選手を送り出しています。

また、元ブラジル代表のリバウド選手が加入したFC Bunyodkor(FCブニョドコール)は2005年に創設された新しいチームですが、2008年途中から監督として指揮を執ったのは、かつてブラジル代表、そしてJリーグ鹿島アントラーズでプレーし、ドイツワールドカップの時に日本代表を率いたジーコでした。彼の指揮のもと、チームは2008年初のウズベキスタンチャンピオンチームになるなど強豪チームとなりましたが、残念ながらジーコはたった1年弱でチームを去り、ロシアのチームへと移籍しました。



ウズベキスタンサッカー協会章(ウィキペディア)

## ウズベキスタンの伝統的格闘技 クラッシュ(Kurash)

日本には、伝統的格闘技として、相撲、柔道、空手などがありますが、ウズベキスタンにも伝統的格闘技として「クラッシュ(Kurash)」があります。この「クラッシュ」とは、ウズベク語で「格闘技」を意味し、紀元前5~6世紀ころに始まったと言われています。

現代ではスポーツ競技として、そしてウズベキスタンの国技として国民の間に普及しており、国内各地で祭りなどのイベントが行われる際には、特設のクラッシュ会場がつけられ、大会が開かれるなど、市民がクラッシュ競技を楽しむ風景が見られます。

クラッシュは柔道に似ており、柔道着に似た青と緑の胴着を着用し、赤の帯を締め、畳の上で戦います。柔道のような寝技はなく、相手の背中を地面につけたら勝ちという、非常にシンプルなルールです。国際クラッシュ協会という世界的組織もあり、国際大会も開かれています。



国際クラッシュ協会のロゴ

日本クラッシュ協会  
WEBサイト



クラッシュの試合の様子  
日本クラッシュ協会WEBサイト

日本にも日本クラッシュ協会という競技団体があり、クラッシュの普及に努めるかたわら、世界大会に選手を派遣するなどの活動をしています。

ウズベキスタンはクラッシュ以外の格闘技も強い国です。2008年開催の北京オリンピックでは、柔道男子100キロ超級でアブドゥロ・ダングリエフ選手が銀メダルを獲得しました。ちなみにこのときの金メダルは日本の石井慧選手です。また、柔道の男子60キロ級ではソピロフ選手が銅メダルを、レスリングのフリースタイル120kg級ではタイマゾフ選手が金メダルを、74kg級ではティギエフ選手が銀メダルを獲得しました。

## ウズベキスタンに対する日本の国際協力

日本は、1991年のウズベキスタンの独立以降、ウズベキスタンへの様々な開発援助事業を支援しています。その中で、2つの事例を紹介します。

### ウズベキスタンにある日本人材開発センター

ウズベキスタン・日本人材開発センター(UJC)は、「日本の顔」が見える援助、日本との人脈形成の拠点として世界9カ国に設置された日本センターの一つです。

2001年8月の開所以来、ウズベキスタン共和国の経済発展を担う人材の育成に貢献するため、日本の経験を生かした経営実務等の研修を行ったり、ウズベキスタンと日本の国民レベルの交流を促進するため、日本語教育や相互理解促進事業を行っています。例えば、ビジネスコースの開講、日本語教育、聴覚に障害を持った方の職業教育の一環としてコンピューターコースの開講、また、茶華道など日本文化の紹介や、子どもたちへの折り紙、書道教室など多彩なメニューを実施しています。

ODAによる総合的な人材育成機関は、同国では日本センターが初めてで、ビジネスコースの卒業生は2008年末で600人を超え、UJCの利用者が累計で35万人を突破し、一ヶ月の利用者は6,000人を越えています。また、2007年よりウズベキスタン国内のプハラにおいても、新たにUJC分室を開設し、各種研修事業などを実施しています。



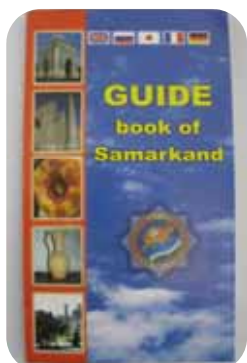
コンピューター研修



書初め大会

 JICA WEBサイト

### JICA青年海外協力隊員が作ったサマルカンドのガイドブック



ウズベキスタンには、JICAの青年海外協力隊員が派遣されています。サマルカンドの観光専門学校に派遣された隊員が同僚のウズベキスタン人と協力して作ったのが、このガイドブック。

2004年当時、サマルカンドにはわかりやすいガイドブックがなくて不便だったことから、作成を思いついたそうです。仕事の合間を縫って同僚と作成し、2007年に完成しました。日本語を含めた5カ国語での案内が掲載されており、とてもわかりやすく、現地では大変な反響。現在、韓国からのボランティアを交えて、韓国語を追加した改訂版を作っています。

 月刊JICA2007年10月号



多言語で書かれている  
サマルカンドのガイドブック

JICA(独立行政法人国際協力機構)

開発途上地域等の経済・社会の開発あるいは復興、または経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進と日本および国際経済社会の健全な発展に資することを目的とする組織。現理事長は、緒方貞子氏。

青年海外協力隊


自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために役立てたいと考える青年を現地に派遣するJICAの事業。協力隊員は、派遣された国の人々と一緒に生活し、働きながら国際協力活動を展開する。派遣期間は原則として2年間。



ウズベキスタン日本人材開発センターでは毎年8月にウズベクの人たちと共に「千羽鶴」を折り、日本人墓地に参拝しています。平和な世界が訪れる事を両国の人々で考えています。



## 名古屋大学日本法教育研究センター ウズベキスタンの法整備を支援

 国際協力新聞(国際協力プラザ)ウェブサイト<http://www.apic.or.jp/plaza/oda/>より引用

### 法整備支援と人材育成の拠点に

社会主義計画経済から民主化・市場経済化を進めている中央アジア諸国にとって、その社会的・経済的な基盤となる司法制度や政治制度の整備は、新しい国づくりの根幹となるものです。そして新しい制度づくりとともに、それを実際に運用していくためには、行政や法曹界の人材育成が欠かせません。こうした中、2005年9月にウズベキスタンの首都にあるタシケント国立法科大学内に名古屋大学の日本法教育研究センターが開設されました。

名古屋大学大学院法学研究科は、学部創設40周年記念事業の一環として1991年にアジア太平洋地域法政研究教育基金を設立。アジア各国の大学・研究機関との学术交流を深めるとともに、国際協力機構(JICA)のベトナム法整備支援に参加するなどアジアの経済国への法整備支援に取組み始め、99年からは留学生の受入れを開始。そして法政分野での国際協力のナショナルセンターとして、02年に名古屋大学法政国際教育協力センターを設置しました。

ウズベキスタンの日本法教育研究センターは、そのサテライトオフィスとして、ウズベキスタンにおける法整備支援と人材育成の拠点となるものです。

### 日本語による日本法教育を実施

日本法教育研究センターの特徴は、日本法の教育を日本語で実施していること。それまで留学生への日本法などの教育は、英語で行われていましたが、日本の法律を英語に置き換える難しさ、日本法に関する英語の文献が少ないことなどの問題点を抱えていました。

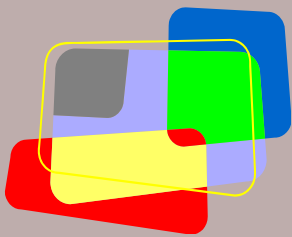
日本語による日本法教育は「法律はその国の慣習など社会規範・意識や伝統的な秩序、その生成の歴史や文化を背景に成り立っており、そうした点を考慮に入れなければ実効性のある法制度は作れない」という法整備支援の一貫した理念に基づいて実施されたものです。日本法教育研究センターでは、日本語教育と日本語による日本法教育を行う「日本法コース」を修了した学生の中から、優秀な学生を名古屋大学大学院法学研究科に受入れるなど、法整備事業を支える有能な人材を養成していくことになります。

日本法教育研究センターは、モンゴル国立大学法学部、ハノイ法科大学(ベトナム、07年9月正式開所)にも設置されています。



## 第3章


一緒に考えよう！こんな課題



# 写真は語る！～ウズベキスタンのある場所の写真から～

① 1枚の写真が語りかけるフォトランゲージ。次の写真から何が読み取れますか？



 ウィキペディア

① 水に浮かんでいるのが当たり前前の船が、なぜこんなところにあると思いますか？  
直接の原因を次の選択肢から選びましょう。

- A 捨てられた
- B 引き潮で一時的に座礁した
- C 水がなくなって取り残された
- D 住居として使うため持ってきた

② ①の答えは「水がなくなって取り残された」です。この場所は、かつて大きな湖(アラル海)でした。  
なぜ、水がなくなってしまったか、その原因として考えられるものを出してみましょう。



### 1 C

この写真は、ウズベキスタンと、隣国カザフスタンの間にまたがる大きな湖、アラル海の画像です。もともとこのあたりには、満面の水があり、湖畔の町は漁業で栄えていました。ところが、ある時を境に急激に水がなくなり、この場所は干上がって陸地になってしまい、船が取り残されてしまいました。その後も干上がった湖に水が戻ってくることはありませんでした。

2 砂漠を農地に変え綿花などを栽培するため、アラル海に流入する河川の水をかんがい用水として、ほとんど利用してしまったから。

## アラル海とは

アラル海はウズベキスタン西北部に位置し、カザフスタン国境に位置する塩湖で、アムダリア川とシルダリア川という大きな川が流れ込んでいた内陸湖です。

1960年代までは面積68,000km<sup>2</sup> (琵琶湖の100倍の大きさ・日本の国土は372,000km<sup>2</sup>) を誇る世界で4番目に大きな湖で、沢山の魚がとれる豊かな湖でした。珍味として知られるキャビア (チョウザメの卵) もこの名産で以前は沢山とれました。また、漁業資源としてだけでなく、近隣の人々の交易や海運の手段として重要な湖でした。



アラル海縮小経過図

小松久男+梅村坦+宇山智彦+帯谷知可+堀川徹編集 『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年

## アラル海が小さくなった

右の写真を見比べてください。この写真は、「アラル海」を宇宙から撮影したもので、左が1989年に撮影した写真、右が2003年に撮影したものです。2つの写真を比べると、近年14年間でも大幅に水面が縮小していることがわかります。

かつては豊かな水量を誇っていたアラル海ですが、20世紀後半、旧ソ連時代に、農業生産を増やし、経済を発展させるため、アムダリア川とシルダリア川の流域で、かんがい設備や運河を建設したため、アラル海に流れ込む水量が激減しました。アラル海の水の減少のスピードは、大変著しく、年間60センチ近くも水面が低下したこともあります。また、その面積は2000年の時点で1960年代の1/3以下の22,400km<sup>2</sup>まで小さくなってしまいました。

アラル海の東岸から南岸は遠浅のため、特に急激な湖岸線の減少が進み、朝、漁師さんが目を覚まして自分の船を見たら、船が砂浜の上に取り残されていたということもありました。結果、写真のように船はどうすることもできずに無惨にうち捨てられ「船の墓場」と化してしまったところも少なくありません。



NASA撮影

# アラル海の悲劇 ～ 持続可能な開発について考える ～

❓ 「アラル海の悲劇」の事例から、開発による経済成長と環境問題について考えよう!

① 開発派と環境派に分かれて、次のロールプレイを行ってみよう!



1960年、旧ソ連政府、某幹部の会議室で、アラル海周辺の開発について話し合われています。

**開発派:** 我が国では綿産業が今絶好調だ。原料の綿花を輸入に頼らず、自国で栽培するとさらに発展する。綿花をつくるには、18度以上の気温と大量の水が必要だ。どこかい場所はないか？  
そうだ、中央アジアのアラル海周辺はどうだろう。

**環境派:** アラル海周辺の土地は砂漠地帯で農業に適さず、人々は漁業や放牧業で生活をしている。

**開発派:** 気温や天気は最高だから、水路を引けば砂漠は農地になる。  
周辺住民に綿花を栽培させ高く買えば、住民も喜ぶはずだ。

**環境派:** 綿花栽培は水をたくさん必要とするためアラル海の水がなくなるおそれがある。  
アラル海的环境にも影響が出るおそれがある。ここは、ペリカンなどの鳥類の生息地でもある。

**開発派:** 綿花栽培は国家にとって利益を生み出す。国家利益に比べれば、多少の犠牲は仕方がない。  
こうしてソ連の綿花栽培プロジェクトは開始されました。砂漠に水路を引きアラル海の水を取水し農地を増やした結果、1970年代前半にはアメリカを抜いて、綿花生産第1位となりました。

**開発派:** ハーッ、ハッハ。ハハハ。我が国の国家計画は成功したな。ははは。

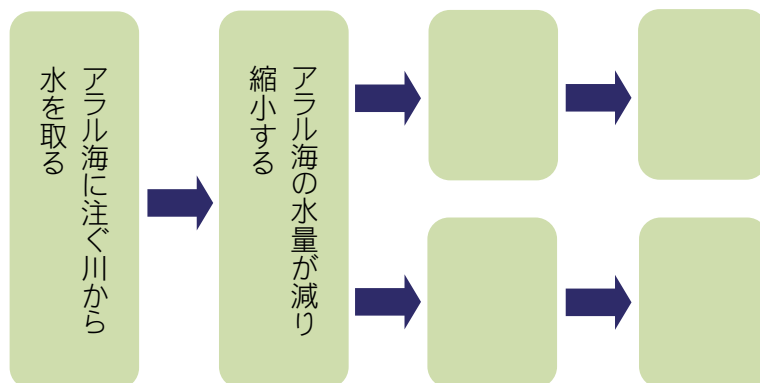
**環境派:** 大変だ! アラル海が縮小しているぞ。それに様々な問題が発生しているぞ!

**開発派:** なんだって!?

② どんな問題が発生したと考えられるでしょう。以下から選んでみましょう。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> A 魚がいなくなった。               | <input type="checkbox"/> F 塩分を含んだ砂嵐が多く発生した。  |
| <input type="checkbox"/> B 湖に生息していたペリカンや鳥類がいなくなった。 | <input type="checkbox"/> G 乳児死亡率が高くなった。      |
| <input type="checkbox"/> C 周辺の住民に健康被害が発生した。        | <input type="checkbox"/> H 農薬汚染で農作物が育たなくなった。 |
| <input type="checkbox"/> D 大きな竜巻がおこるようになった。        | <input type="checkbox"/> I 漁港で栄えていた街がなくなった   |
| <input type="checkbox"/> E 夏の温度は上昇し、冬はより厳しくなった。    |  |

③ 答えを聞いて、問題がどのように連鎖しておこったか、予想してみましょう。  
次に、解説を読んで予想したものをふりかえり、フローチャートにまとめてみましょう。



④ 開発派が間違いで環境派が正しいというように単純に考えることはできません。  
どうしたら、どちらも満足するような解決方法があったか、それぞれの立場で代替案を考えてみましょう。





## 悲劇はここから始まった！

アラル海は、現在はウズベキスタン共和国とカザフスタン共和国に属していますが、1991年の旧ソ連の崩壊までは、アラル海とアラル海に注ぐ河川（アマダリア川、シルダリア川）は旧ソ連のものでした。当時、それらをどのようにするかは旧ソ連の政府によって決められていました。アラル海開発について周囲の住民の意見は反映されていたのでしょうか？

## 「綿花栽培プロジェクトは大成功！！」の影には...

1950年代後半から始まった農業政策によって、砂漠を農地化するために大規模な灌漑が行われました。さらに、旧ソ連政府は綿工業を発展させるために、綿花栽培に適した中央アジアでの綿花栽培を始めました。当時旧ソ連の綿花生産の6割強をウズベキスタンが占めていました。中央アジアで綿花栽培が盛んになったのは、旧ソ連政府が小麦や農作物よりも綿花を高く買い取ったからです。



ウズベキスタンの綿花畑

### 2 全てアラル海周辺で起こった問題です。

#### < 解説 >

もともと、このアラル海周辺は砂漠気候であり、かつ、塩分が多量に含まれている土壌のため、大量の水を必要とする綿花などの農作物の栽培には向かない土地でした。

この塩分を排出するために、より多くの水を必要としたのですが、地表に出てきてしまう塩分を排出するには水量は限界で、最初は強制的な灌漑により耕作できた土地も、塩害の進行とともに作物が育たない土地になってしまい、結局努力して開墾したこの土地を農民達は放棄せざるを得ませんでした。

また、アマダリア・シルダリアの両河川に建設された灌漑用水路は、砂漠に溝を掘っただけの単純なものだったために、大半の水が砂漠に吸収され、土壌の塩類集積、沼地化を促進させてしまいました。本来であれば、水を取水すれば、水を補うことも必要で計画的に水利事業が行われなければならないのですが、無謀な計画により、水を消費する運河だけが実際に建設され水を補完する運河は建設されなかったのです。沼地では、汚染物質のたい積や、害虫の発生なども起き、人々の健康にも悪影響を与えました。

このようなずさんな灌漑設備の計画により流量の激減した両河川は、下流域のアラル海の水域を大きく減少させました。

旧ソ連の科学者のなかにはそのような事態を招くことをあらかじめ想定して、反対した者もいたのですが、そういった意見は、当時の社会主義国家では、「社会主義を妨害するもの」と見なされ、そのまま計画は断行されました。当時のソ連では、「自然改造」の弊害は「自然改造」で克服するという考え方がより建設的である、とされた時代だったのです。

かつてのアラル海周辺は肥沃な湿地帯で、魚も多く、それをえさにするペリカンなど野鳥の生息や渡り鳥の中継地であり、繁殖地でした。そして、豊富な漁場として周辺地域の生活を支えてきました。

アラル海に注ぐ川の水質は塩分を含んでいますが、湖底にいる貝類の働きによって、魚の住みやすい環境に保たれていました。しかし、灌漑によってアラル海の水が少なくなり、貝類が死滅し、その結果、塩分濃度が上昇しました。1980年代初めには売れる魚24種類の内20種類が死滅し、漁業も衰退していきました。かつて漁港として1万人の人々にぎわっていたモイナツクの町では、漁港の衰退と生活環境の悪化によって住民が2,000人に減ってしまいました。

アラル海には夏の熱を吸収し、冬の寒さを和らげる気温を緩和する役割がありました。湖が小さくなると、その機能は低下し、夏の気温の上昇で、竜巻や砂嵐が発生するようになりました。これらは、アラル海湖底の塩分を含み「塩の嵐」となります。「塩」を被った農作物は育たず、周辺住民には、肺疾患などの健康被害が発生しました。また、土壌に含まれた塩分によって、飲み水に塩分が含まれ飲んだ人々からは胃腸障害が発生しました。

また、綿花栽培の為に大量に化学肥料や農薬をまき、簡単に収穫する為に枯れ葉剤をまいていた結果、土地や飲み水が汚染され、食道ガンにかかる人や乳児出生率の低下など問題が発生しました。

➡ P.31につづく

## アラル海の今と未来



NASA 2008.4撮影

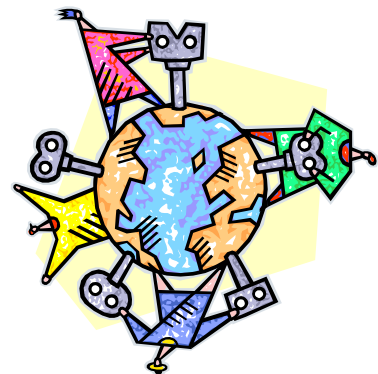
アラル海は南北に分断された後も、水量が減り続け、2005年頃には南側の大アラル海が東西に分断しました。

そのような中で、小規模ながら運河改善など流量回復に努め、現在でもシルダリア川からの流入があるカザフスタン側の小アラル海にはまだ回復の望みがあることから小アラル海のみを救済することを目的に、大アラル海への水の流出・消失を防ぐため、小アラル海と大アラル海の間にカザフスタン政府によりコカラル堤防が完成しました。その堤防建設のおかげで、小アラル海に関しては順調に水位が回復し、予想以上の早さでかつての環境がもどってきました。気候や自然も以前とまではいかないまでも、幾分元通りになり、砂嵐の回数も少なくなり周辺住民の健康状態も改善されました。一方、南側の大アラル海に注いでいたアムダリア川は、現在水量が激減し、アラル海に辿り着くことなく、直前の砂漠の中に消えてしまっています。そのため、大アラル海に注ぐ水がなくなり、このままいくと2010年代には大アラル海が完全に干上がってしまうといわれています。

## 持続可能な開発

「持続可能な開発」は、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくりのことを意味しています。すなわち、環境の保全、経済の開発、社会の発展を調和の下に進めていくことを意味します。その取組にあたっては、環境保全や資源の過剰利用の抑制の視点とともに、貧困の克服、保健衛生の確保、質の高い教育、性・人種による差別の克服等への配慮が必要とされています。

「アラル海の悲劇」だけでなく、地球環境問題など多くの課題を、今の世界は抱えています。今、私たちに求められているのは、どんな未来がよいかを共有し、持続可能な未来を実現するにはどうしたらよいかを考え、個人、地域、世界で具体的な行動を起こしていくことです。





# ウズベキスタンの英雄 アミール・ティムール

## モンゴル系の軍事指導者 ティムール



サマルカンドの  
ティムール像

アミール・ティムール(1336-1405)は、中央アジアのモンゴル系の軍事指導者で、14世紀から15世紀にウズベキスタンで栄えた国家、ティムール朝の建設者です。

彼は、モンゴル系部族のバルラス族の出身でした。当時、この地域はモンゴル帝国の支配の後東西のチャガタイ=ハン国に分裂し、混乱していました。そうした中、ティムールは優れた軍事指揮者としての才能をあらわし、次第に人望を集め、トランスオクシアナ(現在のウズベキスタン中西部とカザフスタン・トルクメニスタン・タジキスタンの各一部)の覇権を確立しました。

ティムールは戦争ではほとんど負けたことがなく、また都市のもつ経済的重要性をよく理解し、その保護につとめました。彼が都としたサマルカンドにはさまざまな施設が建設・整備されて中央アジアの大都市として繁栄をきわめましたが、敵が抵抗した場合には、捕虜数万人を処刑したり、外征先で徹底した略奪・破壊を加えたことなど冷酷な破壊者でもありました。

ティムールはチンギス・ハーンの子孫ではないティムールとその後継者たちが自らハンに即位することはありませんでしたが、現実には、ティムール家による中央アジアの支配が行われたので、これをティムール朝(ティムール帝国)と呼んでいます。

チンギス・ハーンの子孫ではないティムールとその後継者たちが自らハンに即位することはありませんでしたが、現実には、ティムール家による中央アジアの支配が行われたので、これをティムール朝(ティムール帝国)と呼んでいます。



ティムールの支配地域

## ティムールの死後と現在

ティムールの死後、その亡骸はサマルカンドのグリ・アミール廟(『アミールの墓』の意)に葬られました。ティムール朝の滅亡後もティムールについては中央アジアの歴史や民衆文学の中にとどめられました。20世紀になると野蛮な侵略者、民衆の抑圧者として、肯定的に語られることはありませんでした。

しかし、ソビエト崩壊によって新しく独立したウズベキスタンでは、ティムールがモンゴル系であるにもかかわらず、ウズベキスタンの地を基盤に強大な国家を建設した英雄として、民族と新しい国家の象徴となりました。ウズベキスタンの紙幣には彼の姿が印刷され、首都タシュケントにはティムール博物館が建てられ、広場や通りに彼の名前がつけられるなど、歴史的英雄となっています。



タシュケントのティムール朝博物館

グリ・アミール廟にあるティムールの黒石の棺の裏には「私がこの墓から出た時、最も大きな災いが起こる」ということばが刻印され、棺が開けられることはありませんでした。しかし、1941年、ソ連の調査により初めて開けられ、ティムールの脚に障害があったことなどが確認されました。そのわずか3日後、ソ連はドイツの奇襲を受け、ソ連から見た第二次世界大戦の戦端となりました。畏怖を抱いたソ連によってティムールの棺のふたは鉛で溶接され、それ以降二度と開けられていません。



## ウズベキスタンのおしゃれ

### ウズベキスタンのオシャレ1 美しい眉毛

女性達はオスマという草を絞って、眉用に天然のトリートメント&カラーを作る。液状のオスマを眉毛に塗り、乾いたら洗い流す。両眉がつながっている位に濃い化粧がウズベク美人流。



アトラスを着てスカーフを被った女性



オスマを絞る



眉がつながった女性

### ウズベキスタンのオシャレ2

黒く豊かな髪は美しい女性の条件。未婚の女性は腰まである長い髪を何本もの細い三つ編みにし、その美しさを更に際立たせる。昔は髪を切ると不幸になると言われていた。

### ウズベキスタンのオシャレ3

腰までのワンピースにイシタンと呼ばれる裾幅の広いズボンの組み合わせのクイナックは今でも普段着にも外出用にも着用される民族衣装。年配女性はスカーフをして髪を隠します。



クイナック

### ウズベキスタンのオシャレ4 幸せの布

アトラス緋(かすり)と呼ばれる布で作ったクイナックは幸せになると言われています。その発祥は有名な伝説にもなっています。

美しい娘が領主に見初められ、ハレムに連れて行かれたので、父親が娘を帰して欲しいと訴えた。父親が織物職人であるのを知った領主は「この世にない程の美しい布を織ってきたら娘を返す」と言った。父親が途方にくれて歩いていると、夕日にきらめく川波をみてその模様を織って領主に届けた。領主はとても喜び、誉め、娘にもこの布で作ったクイナックを着せて、第一婦人にした。娘はとても幸せになった。

男性はドッピ帽という四角型で黒や濃紺、緑の地に唐辛子をかたどったような白いペイズリー風の模様がついた帽子を被る。イスラムの礼拝の時を始め日常的にも被っています。民族の象徴となっています。

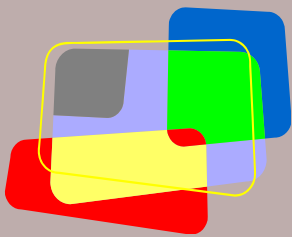


ドッピ帽



## 第4章

そして未来へ



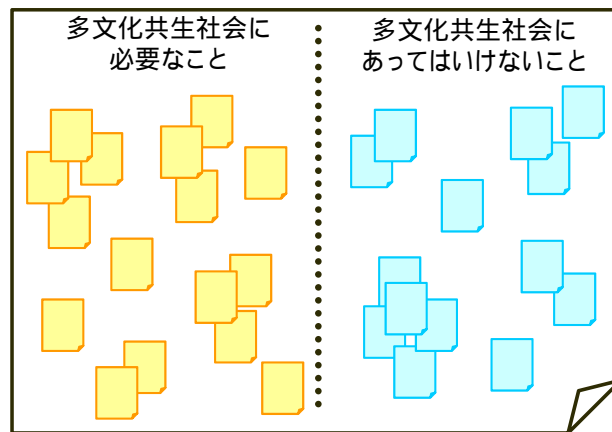
# 『多文化共生社会』ってどんな社会？

① 地球のみんなが一緒に生きていくということは  
どうのことなのでしょう？



- ① みなさんは、『多文化共生社会』ということばを聞いたことがありますか？  
「多くの文化が共に生きる社会」というのは、いったいどんな社会でしょう？  
「多文化共生社会に必要なこと」を黄色い付箋紙に、「多文化共生社会にあってはいけないこと」を青い付箋紙に書き出してみましょう。付箋1枚に1項目ずつ、できるだけたくさん書いてみてください。

- ② 4～6人のグループに分かれましょう。  
各グループで模造紙を用意し、半分に区切ります。左側には「必要なこと」、右側には「あってはいけないこと」を貼っていきます。みんなの意見を共有するために、1人ずつ読み上げながら貼ってください。また、他のメンバーが似たようなものを貼った時はその近くに貼ってください。



- ③ 模造紙にまとめたことをもとにグループで「多文化共生社会とは……な社会」という文章をつくってみましょう。

- ④ では、そんな社会を実現するために、私たちにできることは何でしょう？  
一人ひとり、A4の紙に「私たちにできること7か条」を書いてみましょう。

- ⑤ 一人ひとりがつくった7か条をもとに、グループで「多文化共生社会を実現するための7か条」にまとめ、右のように模造紙に書いてみましょう。

- ⑥ 全員で発表し、感想を話し合きましょう。

多文化共生社会とは	
な社会	
そんな社会を実現するための7か条	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	

# 号外！号外！20年後の新聞です



① 20年後の地域と地球はどうなっているでしょう？  
どうなっているといいでしょう？

みなさんは新聞記者です。20年後の明日発行する新聞記事を書いているところです。  
20年後はどんなニュースが新聞に載っているでしょうか？ だれにでもわかりやすいことばでまとめてみましょう。

- 1 まずは、グループで新聞名を決めましょう。  
模造紙を横にして半分に区切り、  
新聞名と日付を書き込みましょう。

20xx年 月 日	20xx年 月 日

新聞

- 2 20年後地域と地球がこんな風になっている  
といいなと思うことを想像し、ニュース記事に  
まとめてみましょう。模造紙の右半分に地域のニュースを、左半分に地球のニュース(あるいはウズベキスタンの  
ニュース)を書きます。

- 3 全員で発表し、感想を話し合ってみましょう。

- 4 さて、今の生活を続けていったとき、ニュースにまとめたような地域や地球が実現できると思いますか？  
実現するために、自分がやろうと思うことを1つ決めて、グループで共有しましょう。

## 多文化共生社会

1990年の入管法改正により、主に南米からの日系人が多く日本に住むようになりました。近所や学校、職場に外国籍の方がいるのがあたりまえの状況の中でことばの問題、文化・生活習慣の違いからくるトラブル、子どもたちの教育問題、近年の経済悪化による雇用の問題などさまざまな課題が生じています。そうした課題に取り組む中で目指しているのが、「多文化共生社会」の実現です。この「多文化共生社会」とは、「国籍にも、性別にも、年齢にも、障害の有無にも関わらず、すべての人が暮らしやすい社会」と位置づけられています。愛知県が2008年にまとめた「多文化共生推進プラン」では、愛知がめざす多文化共生社会を「国籍や民族などのちがいににかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らせ活躍できる地域社会」としています。そうした社会を実現するために、2006年には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。その中では、特に外国籍住民も暮らしやすい社会を創るために、次のようなことに取り組んでいくと書かれています。

### コミュニケーション支援

多言語による情報提供、相談窓口の設置、日本語学習の支援など

### 生活支援

入居差別の解消、教育にかかる情報提供、進路指導、就業支援、就業環境の改善、外国語対応可能な病院・薬局等の情報提供、医療通訳者の派遣、健康診断・健康相談の実施、高齢者や障害者への対応、災害時の通訳ボランティアの育成、災害時の情報の多言語化など

### 多文化共生の地域づくり

地域住民への啓発、多文化共生の拠点づくり、外国籍住民の地域社会への参画推進など

## 地球的課題(グローバルイシュー)

一国では解決することが難しい、人類共通の課題を「地球的課題」「地球規模の課題」「グローバルイシュー」といいます。大きく分けると4つ、これらの課題は、包括的かつ相互的に関連しています。

### 地球環境

先進国の経済成長などに伴うオゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、海洋汚染、ごみ問題、野生生物の絶滅など地球規模で発生している課題です。

### 貧困と開発

南北問題に伴う貧困、それによる食糧不足、飢餓、衛生面での問題、教育の問題、児童労働など子どもや女性など弱者にかかる問題、持続可能でない開発による環境破壊など、地球規模の構造的な課題なので、途上国だけでは解決できません。

### 平和と安全

核兵器や生物化学兵器など、国境に関係なく被害を及ぼす兵器の根絶、テロの問題、地域紛争の解決と平和維持、児童兵士の問題などです。

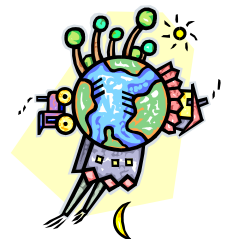
### 人権

民族差別や紛争などにおける難民の問題、貧困と開発のために過剰な労働を強いられる女性や子どもの問題、人間として最低限必要なものさえ保障されない極度の貧困の問題などです。

## 地域の課題と地球の課題はつながっている ~「持続可能な」社会を創るため~

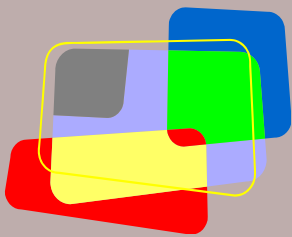
地域の課題と地球の課題は別のものと考えてしまいがちですが、だれもが暮らしやすい「持続可能」な社会を創るという意味では共通しています。また、地域の課題を解決していけば地球の課題の解決にもつながりますし、地球の課題を解決しなければ、地域の未来もないのです。

地域の課題も地球の課題も「だれかが解決してくれる」ものではありません。途上国の多くの課題も原因を突き詰めていけば、わたしたちの日常生活につながってきます。わたしたち一人ひとりが地球の一員として、地域の一員として、自分の問題として、解決に向けて取り組んでいかなければ、次世代に課題を持ち越してしまうことになるのです。





# 参 考 资 料




# 目で見るウズベキスタン




1991年独立を宣言し、11月18日、現在の国旗を制定しました。三日月と星はイスラム教国の象徴です。星は右そろえの3列で、上から3, 4, 5個。青白緑は空と国土と農業を表し、赤は国を守る決意を示しています。

## ●人口●


 2,780万人(2008年国連人口基金)




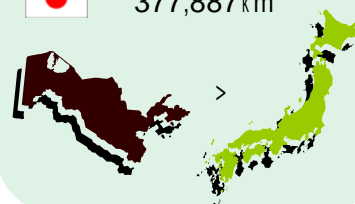
 128百万人



## ●面積●

 447,400km<sup>2</sup>  
(日本の約1.2倍)

 377,887km<sup>2</sup>



## ●言語●

公用語はウズベク語  
ロシア語も広く使われている

## ●宗教●

主としてイスラム教  
スンニ派

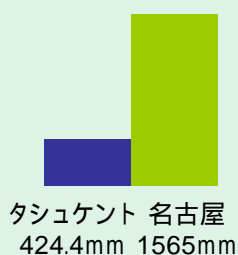
## ●気候帯●

アラル海沿岸～中央部  
砂漠気候、ステップ気候

## ●平均気温●

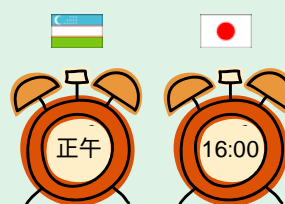


## ●年間降水量●

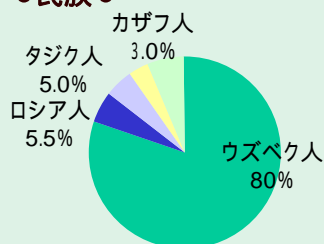


## ●日本との時差●

- 4時間



## ●民族●



## ●通貨●

スム (Sum)  
1ドル=1307.50スム  
(2008年6月2日)

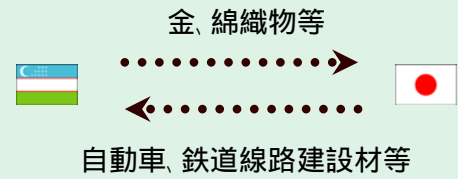
国旗: 『世界の国旗』吹浦忠正監修(Gakken) 人口・面積・首都・民族・通貨: 外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 日本の人口: 世界子供白書2009(ユニセフ) 日本の面積: 総務省統計局「日本の統計」 気候帯・平均気温・年間降水量: 外務省ウェブサイト「探検しよう!みんなの地球」 名古屋の平均気温・年間降水量: 気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46～H12年の平均) 言語・日本との時差: 世界の国一覧表(財団法人世界の動き社)

●主要産業●

綿繊維産業・食品加工・機械製作・  
金・石油・天然ガス



●日本との  
貿易主要品目●



●一人あたりのGNI●

610米ドル(2006年世銀)



38,410米ドル(2006年世銀)



●在留邦人数●

144人(2007年11月現在)



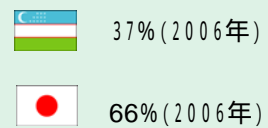
●在日当該国人数●

620人(2007年12月現在)

●出生時の平均余命●

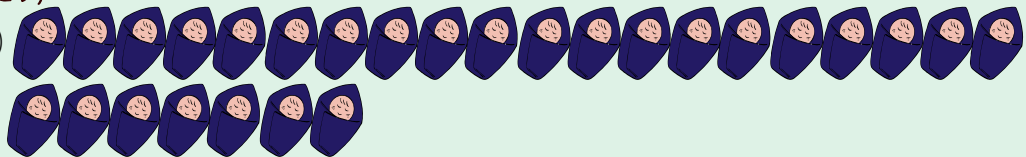


●都市人口の比率●



●5歳未満児の死亡者数●  
(出生1000人あたり)

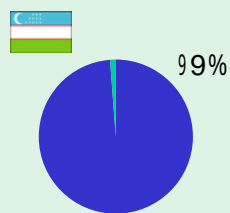
27人(2006年)



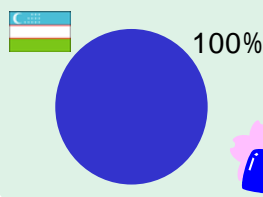
4人(2006年)



●成人の総識字率●  
(2000～2005年)



●初等教育  
純就学/出席率  
(2000～2006年)



●人口増加率●  
(1990～2006年)



主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日当該国人数・外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率・人口増加率：世界子供白書2008(ユニセフ) 成人の総識字率：ナショナル・ジオグラフィックウェブサイト

# ウズベキスタン地図







## 参考文献・データ等の出典

外務省「各国地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省「探検しよう! みんなの地球」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyuu/index.html>

総務省統計局「日本の統計」

<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>

財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2008」

<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>

法務省入国管理局

<http://www.immi-moj.go.jp/>

日本貿易振興機構 (Jetro)

<http://www.jetro.go.jp/indexj.html>

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

<http://www.jica.go.jp/>

日本ウズベキスタン協会

<http://homepage2.nifty.com/silkroad-uzbek/>

国営ウズベキスタン航空

<http://www.uzbekistan-airways.co.jp/>

日本クラッシュ協会

<http://www12.ocn.ne.jp/~ysc6/toppage.htm>

ウズベキスタン・日本人材開発センター

<http://www.ujc.uz/>

「ウズベキスタン 民族・歴史・国家」高橋巖根 著 創土社

「ウズベク語初級 ウズベキスタンへの招待」伊達秀 著 ブイツーソリューション

「シルクロード入門」長沢和俊 著 東京書籍

「社会主義後のウズベキスタン」ティムール・ダダバエフ 著 アジア経済研究所

「もうひとつの抑留 ウズベキスタンの日本人捕虜」藤野達善 著 文理閣

「中央アジアを知るための60章」宇山友彦編著 明石書店

「シルクロード 中央ユーラシアの国々」旅行人

「中央ユーラシアを知る事典」平凡社

「地球の歩き方 シルクロードと中央アジアの国々」ダイヤモンド社

Monthly JICA 2007年10月号

GUIDE book of Samarland

## ご協力いただいた方たち【敬称略】

フジェエフ・ノジムジョン

石川真美子 (JICA青年海外協力隊OG)

孝森めぐみ

井藤淳子

嶋田恭子

櫻井るりこ



## 2008年度教材作成チーム



一宮市

田原市

長久手町

幸田町

扶桑町



特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

財団法人 愛知県国際交流協会



世界の国を知る  世界の国から学ぶ

## わたしたちの地球と未来

 ウズベキスタン共和国 

2009年3月

**発行** 愛知県

**企画  
編集** 財団法人 愛知県国際交流協会  
〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号  
あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

**印刷** サンメッセ株式会社

